

た ろ し 滝

たろし滝は、石鳥谷地域の中心部から西に10kmほど入ったところにあります。とげし森から葛丸川に注ぐ沢水が凍りついてできる大氷柱で、昔から大瀬川地区（古くは畑地区）の人たちは、氷柱の太さでその年の作柄を占ってきたといわれています。「たろし」とはつららを意味し、古語の垂氷（たるひ）がなまったもので、できる氷柱の形が滝に似ていることから「たろし滝」の呼び名がついたといわれています。

氷柱の高さは13mあり、太さは記録として残っているものでは、大豊作となった昭和53年の8mが最高です。

たろし滝の太さと作況

回	年次	太さ	作況指数		回	年次	太さ	作況指数	
			岩手県	北上川下流				岩手県	北上川下流
第1回	昭和50年	4.2m	109	110	26回	12年	計測不能	106	107
2回	51年	3.5m	82	88	27回	13年	計測不能	101	103
3回	52年	6.5m	103	103	28回	14年	計測不能	100	100
4回	53年	8.0m	112	111	29回	15年	5.3m	73	77
5回	54年	計測不能	105	106	30回	16年	1.6m	102	102
6回	55年	3.5m	60	72	31回	17年	計測不能	101	101
7回	56年	6.0m	76	76	32回	18年	5.52m	98	97
8回	57年	計測不能	89	89	33回	19年	計測不能	99	99
9回	58年	4.8m	99	99	34回	20年	4.80m	100	100
10回	59年	7.0m	109	108	35回	21年	計測不能	100	100
11回	60年	7.8m	109	109	36回	22年	計測不能	104	104
12回	61年	6.4m	107	109	37回	23年	5.68m	102	103
13回	62年	計測不能	107	108	38回	24年	6.68m	105	105
14回	63年	5.0m	85	87	39回	25年	5.56m	102	102
15回	平成元年	計測不能	100	99	40回	26年	計測不能	105	105
16回	2年	5.0m	106	105	41回	27年	計測不能	105	105
17回	3年	計測不能	90	92	42回	28年	4.70m	102	102
18回	4年	計測不能	100	99	43回	29年	計測不能	98	98
19回	5年	計測不能	30	34	44回	30年	4.55m	101	101
20回	6年	4.4m	110	110	45回	令和元年	5.50m	103	103
21回	7年	4.7m	96	95	46回	令和2年	計測不能	103	102
22回	8年	計測不能	102	103	47回	令和3年	6.10m	103	103
23回	9年	3.9m	105	105	48回	令和4年	5.45m	99	99
24回	10年	6.3m	96	96	49回	令和5年	5.40m	104	104
25回	11年	4.0m	105	104	50回	令和6年	計測不能	未定	未定

測定日・・・毎年2月14日 AM10時

↓

平成12年より毎年2月11日 AM10時

大瀬川たろし滝測定保存会

計測後の会長川柳（第17回の測定会より開始）

- | | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第17回 | 平成3年 | 温暖化たろしの太り妨げる |
| 第18回 | 平成4年 | 減反がこわくてたろしふとれない |
| 第19回 | 平成5年 | たろし滝無いので知恵でカバーする |
| 第20回 | 平成6年 | 凶作の心配ないと云うたろし |
| 第21回 | 平成7年 | 並作はかたいとたろし笑っている |
| 第22回 | 平成8年 | 並作に夢を託せと云うたろし |
| 第23回 | 平成9年 | 油断無く並の太さがそっと云い |
| 第24回 | 平成10年 | さあ大変減反増えるこの太さ |
| 第25回 | 平成11年 | まずまずの太さで秋に夢を馳せ |
| 第26回 | 平成12年 | 米余り心配してか姿消し |
| 第27回 | 平成13年 | 減反にたろしの涙流れ過ぎ |
| 第28回 | 平成14年 | いい兆し皆で創れと瀧が言い |
| 第29回 | 平成15年 | この太さきつといいことありますよ |
| 第30回 | 平成16年 | 三度 ^{みたび} 落ちめげずに夢をつないでる |
| 第31回 | 平成17年 | 崩落が度重なってちと不安 |
| 第32回 | 平成18年 | でっかいなあこの氷柱に ^{ゆめ} 希望が湧き |
| 第33回 | 平成19年 | 不作かなよぎる思いのこの風情 |
| 第34回 | 平成20年 | わあ…すごい縁起重ねてはずむ声 |
| 第35回 | 平成21年 | この試練転機がきつとやってくる |
| 第36回 | 平成22年 | 直前の崩落心揺れ動き |
| 第37回 | 平成23年 | 久々の太い柱に湧く歓喜 |
| 第38回 | 平成24年 | この太さ熱い絆に育まれ |
| 第39回 | 平成25年 | どっしりと根張りも太くいい予感 |
| 第40回 | 平成26年 | 崩落にめげず讃歌がこだまする |
| 第41回 | 平成27年 | T P P心配なので太れない |
| 第42回 | 平成28年 | 国体の奮起促し太くなり |
| 第43回 | 平成29年 | 測れないための対策模索する |
| 第44回 | 平成30年 | 冷え込みに耐えてにっこりワンダフル |
| 第45回 | 令和元年 | 新元号期待ふくらむこの眺め |
| 第46回 | 令和2年 | 温暖化被害怖くて太れない |
| 第47回 | 令和3年 | わあすごいドラマ明るくなる兆し |
| 第48回 | 令和4年 | 仰ぎ見るコロナもたまげる大氷柱 |
| 第49回 | 令和5年 | たろし滝皆の熱意が大臣賞 |
| 第50回 | 令和6年 | 能登ゆれてたろし泪の50回 |

※ J R石鳥谷駅から西に約10km（車で約15分）。たろし滝入口から徒歩約5分です。
なお、現地入口手前500mのところに駐車場（ポケットパーク）がありますのでご利用下さい。